

50周年によせて

山梨県知事

後藤 齋



山梨県消防学校開校50周年にあたり、ごあいさつ申し上げます。

本校は、消防職員及び消防団員の教育訓練機関として、昭和40年4月に甲府市住吉二丁目に設置され、満50年を迎えました。

この間、昭和50年には、常備消防の広域化による消防職員の急増等に対応するため、中央市今福の現在地に移転し、平成26年度末までに延べ約15,000人の消防職員及び102,000人をこえる消防団員に対して教育訓練を行ってまいりました。

さらに、年月の経過とともに消防学校施設の老朽化が進み、建替えの必要性が増したこと、複雑・多様化する災害や火災に対応し、高度な救急救命処置等にも的確に応ずることができる技能の習得等を目指した教育訓練施設の整備が急務になったことを受け、平成27年3月、新たな消防学校を整備したところであります。

近年は、市町村界や県境を越えた大規模な災害の発生が見られ、広域的な災害対策の必要性が強く認識されるようになりました。

特に、大型台風がもたらす集中豪雨などの災害や将来発生が予測される南海トラフ巨大地震などに備えるため、総合的な防災・減災体制の確立と消防の相互協力体制の充実強化など、災害から県民の生命・財産を守る強靱な県土づくりが喫緊の課題となっています。

このような中、消防職員、消防団員の皆様には、日夜、県民の安全・安心な生活の確保のため、力を尽くされていることに心から敬意を表するとともに、一層の知識・技能の習得に向け、消防学校を積極的に活用いただけるよう期待を申し上げる次第です。

今後は、水難及び山岳救助訓練施設や救急実習室などの新たな実技訓練施設を活用した実践的な教育訓練を行い、増加する女性の消防職団員にも配慮した施設の活用を図りながら消防防災の中核を担う人材の育成に一層努めるとともに、隣接する防災安全センターと協力し、平時における自主防災組織等への防災教育を通して、地域防災力の充実強化を図ってまいり所存であります。

本校が、消防職員及び消防団員等の教育訓練・防災教育の拠点として更に充実した施設となるよう、引き続き関係各位のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

50周年によせて

山梨県消防学校 校長

大久保 友良



山梨県消防学校は、昭和40年4月に甲府市住吉に開校以来、消防職員及び消防団員の教育訓練機関として50年にわたり優秀な人材を育成して参りました。これも、ひとえに関係各位のご支援、ご協力のお蔭であると深く感謝申し上げます。

さて、本校は、昭和50年に中央市今福の現在地に移転後、40年を経た平成27年3月、多角的な消防活動訓練及び燃焼実験を実施できる総合訓練棟や水難及び山岳救助訓練など高度で特殊な教育訓練が可能な各種施設を有する消防学校として新たなスタートを切りました。

また、東日本大震災を契機として、大規模災害等に対する消防防災力の充実強化を図ることを目的に「消防学校の施設、人員及び運営の基準」及び「消防学校の教育訓練の基準」が大きく改正されたことから、本校は全国に先駆けて新たな基準に準拠したカリキュラムによる教育訓練を実施しており、これは大いなる誇りであります。

近年、災害は複雑多様化・大規模化し、社会環境や気象の変化などにより、災害のリスクは更に高まる状況にあることから、県民の安全・安心な暮らしを守る消防機関に対する期待はますます大きくなっており、消防防災の教育機関である本校の役割の重要性も一層増してきています。

今後も、災害の態様の変化等に伴い、教育訓練のニーズは刻々と変わっていくものと思われませんが、常に消防学校が消防職員及び消防団員の皆様の「原点」となり、新たな知識・技術を発信する場所であり続けるよう、職員一同職務に邁進していく所存でありますので、関係各位の変わらぬご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。